

平成30年度 独創的研究助成費 実績報告書

平成31年 3月23日

報告者	学科名	造形デザイン学科	職名	教授	氏名	山下 明美
研究課題	色彩教育を支援するワークブックの開発と活用に関する研究					
研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担		
	代表	山下明美	造形デザイン・教授	色彩デザイン	調査・研究	
	分担者	山本 希恵	常盤薬品工業株式会社・デザイナー	ビジュアルデザイン	調査・研究補助	
研究実績の概要	<p>(1) 事例調査                  以下のような項目について調査を行なった。                  ※添付資料参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大学生の色彩教育の学びに関するアンケート</li> <li>○ 小学校高学年の「図画工作」～中学校「美術」、資料集の調査</li> <li>○ 初等教育の色彩教育に関する先行研究について</li> <li>○ 学習指導要領「図画工作」「美術」（文科省）の変遷について</li> <li>○ 地域学校協働活動について（文科省）※「図画工作」「美術」に限定しない  <a href="http://manabi-mirai.mext.go.jp/kyodo.html">http://manabi-mirai.mext.go.jp/kyodo.html</a></li> </ul>					
	<p style="text-align: center;"><b>地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）</b></p> <p>◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。                  ◎ 従来の地域団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。</p> <p>★より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成</p> <p>1) 岡山県での取り組み                  岡山市 15 団体（中学校 10 校、小学校 27 校、幼稚園・認定こども園 16 園）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 足守中学校区地域協働学校連絡会（足守中、足守小、蛍明小、足守幼）</li> <li>・ 岡輝中学校区地域協働学校連絡会（岡輝中、清輝小、岡南小、岡南認定こども園）</li> </ul>					

研究実績  
の概要

- 御津中学校区地域協働学校連絡会（御津中、御津小、御津南小、五城小、御津金川認定こども園）
- 光南台中学校区地域協働学校連絡会（光南台中、甲浦小、小串小、甲浦幼）
- 岡山市立福田中学校区地域協働学校連絡会（福田中、福田小、福田幼）
- 妹尾中学校区地域協働学校連絡会（妹尾中、妹尾小、箕島小、妹尾幼）
- 御南中学校区学校支援連絡会（御南中、西小、御南小、今幼）
- 上道中学校区地域協働学校運営協議会連絡会（上道中、角山小、城東台小、御休小、平島小、角山幼、御休幼、浮田幼）
- 地域協働学校芳田中学校区教育連携会議（芳田中、芳田小、芳明小、芳田幼、芳明幼）
- 平津小学校地域協働学校運営協議会（平津小、平津幼）
- 興除中学校区地域協働学校（東疇小、曾根小）
- 富山中学校区地域協働学校連絡会（富山中、富山小、富山幼）
- 桃丘地区地域協働学校運営協議会（桃丘小、桃丘幼）
- 旭竜応援隊（旭竜小）
- 里山建部地域協働連絡会（建部小、建部認定こども園）

2) 岡山市「学校支援ボランティア」制度

◆市内 10 大学・2 専門学校のボランティア登録について

市内 10 大学（岡山大学、ノートルダム清心女子大学、山陽学園大学・山陽学園短期大学、中国学園大学・中国短期大学・IPU 環太平洋大学、就実大学・就実短期大学・岡山理科大学）及び 2 専門学校ビーマックス、岡山情報ビジネス学院では、年度初めに各大学・学校の学生を対象とした『学校支援ボランティア研修会』を各大学・学校において開催している。

その他）総社市：放課後こども教室

[http://manabi-](http://manabi-mirai.mext.go.jp/assets/files/pdf_H24%20daijinhyosyo/27_okayama/63_soja.pdf)

[mirai.mext.go.jp/assets/files/pdf\\_H24%20daijinhyosyo/27\\_okayama/63\\_soja.pdf](http://manabi-mirai.mext.go.jp/assets/files/pdf_H24%20daijinhyosyo/27_okayama/63_soja.pdf)

○ 民間で開発されたこども向けの色彩教育や教材事例について

関連書籍 この色なあに、6つの色、22の色、どの色好き？

数字パズルぬりえ、タイリングぬりえ、色の学び事典 etc.

○ こども向けの色彩ワークショップ事例について

①こども向け色彩知育教室

<一般社団法人 日本こども色彩協会>

・大人向けも開講している色彩知育を謳っている教室（有料）

・対象：ベビー～ジュニア、大人

<https://kodomo-shikisai.com/>

②色彩計画と色彩教育

<カラープライマリー>

・企業向け ・こどもワークショップ ・色彩検定対策

③フィンランド教育：教育環境の色

④レヅジョエミリア（イタリア）：知識ではなく感性を重視した色彩教育

⑤こどもを伸ばす色彩教育キッズファインカラー

⑥シュタイナー教育：知識ではなく感性を重視した色彩教育

⑦色彩学校：カラーセラピー <https://www.heart-color.com/top.php>

（2）調査の考察と提案

既存の講座や参考文献などを調査してみると、こどもの感性や造形力を伸ばすことを目的とした色彩教育やワークショップは数多く存在するが、本研究が目指す義務教育の中での色彩教育での欠落部分を補完することを目的とした教材や講座を見つけることはかなり困難であった。

<p>研究実績の概要</p>	<p>ゆとり教育への見直しは初等・中等教育全般で検討されているが、色彩の基礎教育に関しては依然として図工・美術の範疇で捉えられており、光やデジタル環境、都市景観など社会生活全般に関わる分野であるという視点はまだ浸透していないといえる。小学生でもスマホやタブレットを普通に使い、ゲームやアプリを楽しむ中で、色がどんな心理作用をしたり視覚効果を応用しているかは、現実の方が先行している感がある。</p> <p>そのような状況の中で、色彩教育を補完するアクティブラーニングは欠かせないことを再確認した。</p> <p>(3) 今後の課題と展望</p> <p>今年度は調査とその考察が主となったが以下の課題については、次年度以降も引き続き研究していく予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○カラーワークブック（制作：共同研究者）の項目や内容の見直しとリメイク</li> <li>○アクティブラーニングへの展開手法の研究</li> <li>○カラーユニバーサルデザインの項目の追加と検討</li> <li>○地域学校協働活動への〈学生参加の可能性〉について検討</li> </ul> <p>文科省の学習指導要領にもある〈社会に開かれた教育課程〉の実現に地域の大学が支援する形になる。</p> <p><a href="http://manabi-mirai.mext.go.jp/assets/files/H30kikaku/H30teidansankousiryoku.pdf">http://manabi-mirai.mext.go.jp/assets/files/H30kikaku/H30teidansankousiryoku.pdf</a> その他）自習型のカラーブックの内容を改良して、小学校の多くですでに導入されているタブレットでの教育の中に組み込んでいくことで、効率よく基礎教育が身につく方法についても検討していきたい。</p> <div data-bbox="379 1021 1198 1308" data-label="Image"> </div> <p>色彩ワークショップの指導者用ガイドより（作成：山本希恵）</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>2018 日本色彩学会大阪大会での研究発表より 「アクティブラーニングを支援する色彩ワークブックの提案」</p>